



神戸ゆかりの美術館 神戸ファッション美術館  
第10回日展神戸展  
2024年2月17日(土)～3月24日(日)

## 第10回日展 神戸展に寄せて

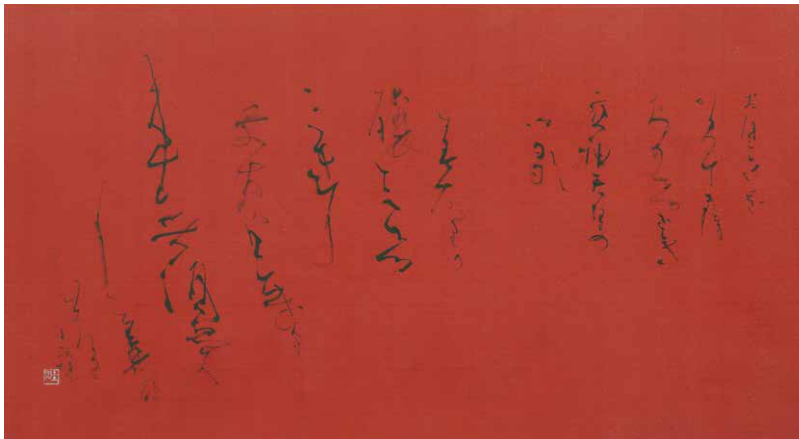
神戸市立小磯記念美術館 神戸ゆかりの美術館 館長 岡 泰正

日展（日本美術展覧会）は5科—日本画、洋画、彫刻、工芸美術、書—の作家が年に1度、この展覧会のために制作した最新作が揃う世界でも類を見ない大規模な総合美術展です。広く年齢を問わず一般からの応募を受け付け、秋の審査に通れば、入選作として巨匠たちと同じ美術館で展示されるのです。入選を重ねた、審査を受けない「無鑑査」作家でも、精進をおこたれば評価を受けず、その意味で、平等であると同時に厳しい才能のコンペでもあります。

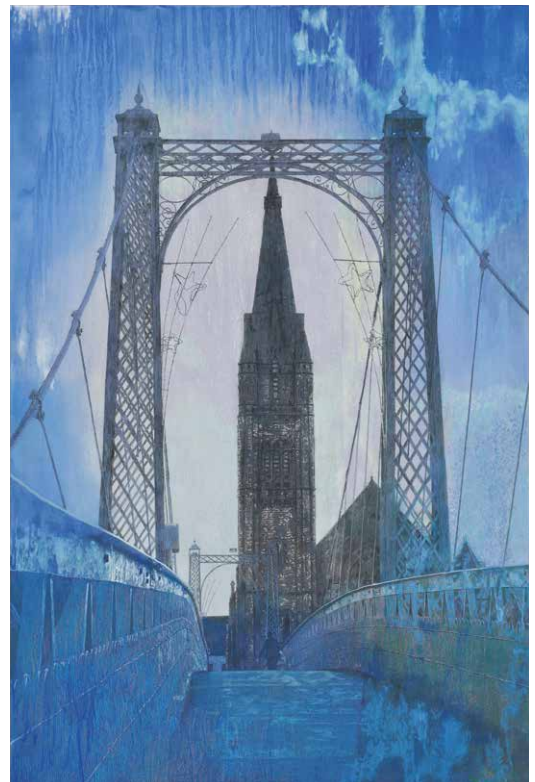
日展の歴史は古く、明治40（1907）年に開催された第1回文展に始まり、帝展を経て、その伝統は戦後に引き継がれ、現在に至っています。小磯良平も東山魁夷もかつて帝展、日展で認められて盛名を得ました。大阪市立美術館の改修を受けて、神戸の六甲アイランドの神戸ゆかりの美術館、神戸ファッション美術館2館を会場として、2度目の日展神戸展が開催されます。

本展は、無鑑査の作品と地元の「入選作品」によって構成されています。全国を巡回する、今年の特選作を含む「基本作品」を主軸に、兵庫、大阪、奈良、和歌山4府県の入選作品を加えた総数約530点を一堂に揃え、地元色を打ち出した構成となっています。

地元作家で特筆されるのは、日本画の西田眞人<sup>にしだまさと</sup>氏が内閣総理大臣賞、彫刻の九後稔<sup>くごみのる</sup>氏が東京都知事賞、書の森嶋隆鳳<sup>もりしまりゅうほう</sup>氏が日展会員賞を受賞したことです。さらにこのたび、日展顧問・井茂圭洞<sup>いしげいどう</sup>氏が文化勲章を受章、理事長・宮田亮平<sup>みやたひょうへい</sup>氏、副理事長・黒田賢一<sup>くろだけんいち</sup>氏が文化功労者に選出され、理事・小灘一紀<sup>こなだいつき</sup>氏が日本芸術院賞受賞の栄誉に輝きました。こうした大家たちの作品から地元作家の新入選作まで、日本美術の「今」を映し出す力作の数々が神戸に集結します。



(書) 井茂 圭洞「御酒Ⅱ (みきⅡ)」



(日本画) 西田 眞人「懐 (かい)」